

正 誤 表

「皮膚病理組織診断学（第3版 第1刷）」

下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
ix	右段, 各論 38	Drug-induced hypersensitivity syndrome (<u>DHIS</u>)	Drug-induced hypersensitivity syndrome (<u>DIHS</u>)
x	左段, 各論 56	乳房外 Paget (<u>ページェット</u>) 病	乳房外 Paget (<u>パージェット</u>) 病
x	左段, 各論 78	間質性肉芽腫性皮膚炎	間質性肉芽腫性皮膚炎, <u>アッカーマン症候群</u>
x	右段, 各論 89	Leukocytoclastic vasculitis, Anaphylactoid purpura, Schönlein-Henoch purpura 白血球破壊性血管炎, アナフィラクトイド紫斑, Schönlein-Henoch (<u>シェーンライン・ヘノッホ</u>) 紫斑	Leukocytoclastic vasculitis, Anaphylactoid purpura, Schönlein-Henoch purpura, <u>IgA vasculitis</u> 白血球破壊性血管炎, アナフィラクトイド紫斑, Schönlein-Henoch (<u>シェーンライン・ヘノッホ</u>) 紫斑, <u>IgA 血管炎</u>
x	右段, 各論 101	形成異常 (副耳; 耳前瘻孔; 副乳; 気管支原性 <u>囊腫</u> ; 陰茎正中縫線 <u>囊腫</u>)	形成異常 (副耳; 耳前瘻孔; 副乳; 気管支原性 <u>囊胞</u> ; 陰茎正中縫線 <u>囊胞</u>)
xii	右段, 各論 187	Urticaria; Urticaria pigmentosa, Mastocytosis 蕁麻疹; 色素性蕁麻疹, 肥満細胞 <u>症</u>	Urticaria; Urticaria pigmentosa, Mastocytosis 蕁麻疹; 色素性蕁麻疹, 肥満細胞 <u>腫</u>
2	上から 1 行目	正常所見を <u>対象</u> として	正常所見を <u>対照</u> として
6	図 12 中	真皮内 <u>アクリン汗</u>	真皮内 <u>アポクリン汗管</u>

頁	該当箇所	誤	正
9	右段, 下から 5~6行目	これを断頭分泌 decapitation secretion という	これを断頭分泌 decapitation secretion (<u>apocrine secretion</u>) という
12	図 12 タイトル	不全角化	不全角化性の角質増生
14	図 31 解説文, 下から 2 行目	苔癬様細胞浸潤	苔癬状細胞浸潤
17	左段, 下から 6 行目	浮腫性の結合織内に	<u>肉芽組織</u> とは浮腫性の結合織内に
17	右段, 上から 6 行目	血管や付属器 <u>周囲</u> などを	血管や付属器などを
18	図 41 解説文, 1 行目	膠原 <u>病</u> 維束が	膠原 <u>線</u> 維束が
19	右段, 下から 22 行目	<u>アルカリホスターゼ</u> も有用	<u>アルカリホスファターゼ</u> も有用
21	表 3, 下から 3 行目	CK8, <u>18</u>	CK8, (7)
24	左段, 下から 10 行目	良性腫瘍 <u>など</u> は	良性腫瘍は
27	右段, 下から 25 行目	secretion (pinching-off secretion, <u>snout</u>)であって	secretion (<u>apocrine secretion</u> , pinching-off secretion)であって
31	図 55 中	<u>Fibroepithelioma</u> (Pinkus 型 BCC) (59 頁, 図 C)	<u>Fibroepithelioma*</u> (Pinkus 型 BCC) (59 頁, 図 C)

頁	該当箇所	誤	正
32	図 57 中	Proliferating <u>tricholemmal</u> tumor*(204 頁)	Proliferating <u>trichilemmal</u> tumor*(204 頁)
34	左段, 上から 15, 16 行目, 下から 1 行目	<u>八つの</u>	<u>8つの</u>
35	表 9 中	真皮に結節状ないし <u>び慢性</u> の細胞浸潤がみられる病変	真皮に結節状ないし <u>びまん性</u> の細胞浸潤がみられる病変
39	左段, 上から 10 行目, 下から 15 行目	放線菌症	放線菌症(62 頁)
39	右段, 下から 17 行目	アナフィラクトイド紫斑 (138 頁)	アナフィラクトイド紫斑 (<u>IgA 血管炎</u>) (138 頁)
40	左段, 下から 1 行目	<u>全身性アミロイド症</u> を考える	<u>全身性アミロイドーシス</u> を考える
42	左段, 上から 22 行目	脂肪性類壊死症	脂肪類壊死症
45	組織学的鑑別 診断 [2], 1 行 目	毛包上皮腫・毛芽 <u>種</u>	毛包上皮腫・毛芽 <u>腫</u>
48	病理組織所見 ⑥, 3 行目	DFS (<u>diret</u> fast)	DFS (<u>direct</u> fast)
49	組織学的鑑別 診断 [2], 6 行 目	血管の拡張増生が	血管の拡張, <u>増生</u> が
49	メモ 1), 3~ 6 行目	(図 B) と pearly penile fibroma/papule (真珠様陰茎線維腫 (丘疹) も adventitial dermis の線維化をきたすという点で, angiofibroma と本質的に同一の病態であるとしている.	(図 B) も <u>adventitial dermis の線維化をきたす過誤腫的病変であり, angiofibroma と本質的に同様の病態であるとしている.</u>

頁	該当箇所	誤	正
52	組織学的鑑別 診断 [2], 3 行 目	られことなどから鑑別される	られることなどから鑑別される
54	病理組織所見 ②, 1 行目	ほぼ 2 層の上皮細胞で構成され	ほぼ 2 層の上皮細胞で構成され
54	図 C 中	囊腫壁に <u>皮脂腺</u> が付着	囊腫壁に <u>脂腺</u> が付着
57	組織学的鑑別 診断, 上から 7 行目	が真皮深層～皮下に <u>病変</u> に存在する	が真皮深層～皮下に存在する
61	組織学的鑑別 診断 [2], 3 行 目	Pigmented epithelioid <u>melanocytoma</u> (PEM)	Pigmented epithelioid <u>melanocytoma</u> (PEM)
62	組織学的鑑別 診断 [2], 3, 4 行目	<u>繊維</u>	<u>線維</u>
63	組織学液鑑別 診断 [2], 3～ 4 行目	コンジローマ様の <u>シルエット</u>	コンジローマ様の <u>シルエット</u>
65	メモ 2), 2 行 目	<u>DDP4</u> 阻害薬	<u>DPP4</u> 阻害薬
71	タイトル	Allergic granulomatous, <u>angiitis</u>	Allergic granulomatous angiitis
72	組織学的鑑別 診断 [4], 4～ 5 行目	限局性, <u>腫瘍性</u> 病変であり	限局性の <u>腫瘍性</u> 病変であり

頁	該当箇所	誤	正
78	組織学的鑑別 診断 [2], 4 行 目	monomorphpus	monomorphous
85	図 A の c 中	真皮内に <u>び漫性</u> ～乱雑に増殖する異型メラノサイト	真皮内に <u>びまん性</u> ～乱雑に増殖する異型メラノサイト
86	病理組織所 見, 下から 7 行目	汗孔 <u>様</u> 汗腺腫	汗孔 <u>腫</u> 様汗腺腫
90	上から 4 行目 病理組織所見 ①, 5 行目 メモ 3), 5 行 目	経表皮性排出	経表皮性排除
93	メモ 3), 1 行 目	miliuu	miliu <u>m</u>
100	メモ 2), 1 行 目	localized chronic <u>fbro</u> sing vasculitis	localized chronic <u>fibrosing</u> vasculitis
103	メモ, 2 行目	paniculitis	panniculitis
104	タイトル	乳房外 Paget (<u>ペー</u> ジェット) 病	乳房外 Paget (<u>パ</u> ジェット) 病
107	組織学的鑑別 診断 [2], 2 行 目	が認められ <u>点</u> で	が認められ <u>る</u> 点で
112	組織学的鑑別 診断 [3], 2 行 目	顆粒状物 <u>資</u> を含有する	顆粒状物 <u>質</u> を含有する

頁	該当箇所	誤	正
115	組織学的鑑別診断 [3], 4～5行目	<u>Bartonella henselae</u>	<u>Bartonella henselae</u>
116	組織学的鑑別診断 [1], 6行目	抗体直接法にて表皮細胞間に一致する網状の	抗体直接法にて <u>IgG と C3 が</u> 表皮細胞間に一致する網状の
123	病理組織所見 ②, 4行目	srotiform	storiform
127	タイトル	間質性肉芽腫性皮膚炎	間質性肉芽腫性皮膚炎, <u>アッカーマン症候群</u>
127	病理組織所見 ③, 1行目	Churg-Strauss 症候群	Churg-Strauss 症候群 <u>(71 頁参照)</u>
129	メモ 2), 2行目	inflamed	inflamed
131	上から 3～4 行目	前者が持続性病変で, 創部を越えて増大するのに対し, <u>後者</u> は創部内にとどまり	<u>ケロイド</u> が持続性病変で, 創部を越えて増大するのに対し, <u>肥厚性癒痕</u> は創部内にとどまり
131	病理組織所見, 肥厚性癒痕①, 1行目	表皮と <u>並行</u> 方向に	表皮と <u>平行</u> 方向に
134	組織学的鑑別診断 [3], 1行目	肥満細胞症	肥満細胞腫

頁	該当箇所	誤	正
135	[血管平滑筋腫の鑑別], 下から3行目 [立毛筋性平滑筋腫の鑑別] ②, 最終行 メモ2), 最終行	desmin	デスミン
135	[立毛筋性平滑筋腫の鑑別] ②, 2行目	紡錘形状が増殖し	紡錘形状細胞が増殖し
138	タイトル	Leukocytoclastic vasculitis, Anaphylactoid purpura, Schönlein-Henoch purpura 白血球破壊性血管炎, アナフィラクトイド紫斑, Schönlein-Henoch (シエーンライン・ヘノッホ) 紫斑	Leukocytoclastic vasculitis, Anaphylactoid purpura, Schönlein-Henoch purpura, <u>IgA vasculitis</u> 白血球破壊性血管炎, アナフィラクトイド紫斑, Schönlein-Henoch (シエーンライン・ヘノッホ) 紫斑, <u>IgA 血管炎</u>
141	メモ2), 5~6行目	また, <u>inflamed</u> seborrheic keratosis との異同も問題になる.	また, <u>inflamed</u> seborrheic keratosis との異同も問題になる (129 頁, メモ2) 参照).
145	病理組織所見 ③, 1行目	血管線維腫	血管脂肪腫
146	組織学的鑑別 診断 ①, 1行目	アナフィラクトイド紫斑 (138 頁参照)	アナフィラクトイド紫斑 (<u>IgA 血管炎</u>) (138 頁参照)
149	[結節状ムチン沈着症 (tumid LE) の鑑別] ②, 1行目	多形日光疹	多形日光疹 (<u>200 頁参照</u>)

頁	該当箇所	誤	正
153	下から9行目	3)本症の新たな	4)本症の新たな
154	タイトル 上から5行目 病理組織所 見, 下から9 行目	気管支原性 <u>囊腫</u>	気管支原性 <u>囊胞</u>
154	タイトル 上から6行目 病理組織所 見, 下から3 行目	陰茎正中縫線 <u>囊腫</u>	陰茎正中縫線 <u>囊胞</u>
155	組織学的鑑別 診断, 下から 11行目 図Dタイトル	気管支原性 <u>囊腫</u>	気管支原性 <u>囊胞</u>
155	組織学的鑑別 診断, 下から 11行目 図Eタイトル	陰茎正中縫線 <u>囊腫</u>	陰茎正中縫線 <u>囊胞</u>
155	組織学的鑑別 診断, 下から 6行目	鰓性 <u>囊腫</u>	鰓性 <u>囊胞</u>
157	メモ3), 最終 行	根本的に異なるものである.	根本的に異なるものである. <u>なお, 最近のWHO分類(2018)では, CSDの語義を“cumulative sun damage”へ置き換えたうえで, 上記のCSD melanomaをhigh CSD melanomaへ, non CSD melanomaをlow CSD melanomaへ表記を変更している.</u>
165	メモ4), 4~5 行目	組織学的所見は断頭分泌 <u>decapitation secretion</u> のみであり	組織学的所見は断頭分泌 (<u>decapitation secretion/apocrine secretion</u>)のみであり

頁	該当箇所	誤	正
165	メモ 4), 下から 6 行目	<u>鑑</u> 細胞	<u>環</u> 細胞
169	[2] 1 行目	vertical streaks という (図 B) 乳頭真皮で	vertical streaks という (図 B) <u>乳</u> 頭真皮で
170	上から 4 行目	おこる	起こる
171	メモ 2), 2 行目	pagetoid reticulosis	pagetoid reticulosis/ <u>Woringer-Kolopp disease</u>
176	組織学的鑑別診断 [3], 最終行	S-100	S-100 <u>蛋白</u>
184	図 A-c 中	<u>絳</u> 原線維束	<u>膠</u> 原線維束
205	メモ 4), 下から 6 行目	trichilemma	trichilemma
214	メモ 2), 最終行	発症に関するという	発症に <u>関与</u> するという
214	図 a 中 図 b 中	毛包上皮内の大きな <u>膿瘍</u>	毛包上皮内の大きな <u>膿疱</u>
216	病理組織所見 ②, 2 行目 組織学的鑑別診断 [4], 1 行目	<u>膿瘍</u>	<u>膿疱</u>

頁	該当箇所	誤	正
217	組織学的鑑別 診断 [2], 下 から 2 行目 組織学的鑑別 診断 [4], 最 終行 メモ 1), 1 行 目	S-100	S-100 <u>蛋白</u>
219	図 c 中	<u>抗原</u> 線維束間の	<u>膠原</u> 線維束間の
223	メモ 1), 2 行 目	S-100	S-100 <u>蛋白</u>
224	病理組織所見 ①, 4 行目	病変底部ほぼ水平で	病変底部は <u>ほぼ</u> 水平で
224	病理組織所見 ⑥, 1 行目	epithetioma	epithelioma
225	組織学的鑑別 診断 [3], 1 行 目	表皮母斑	表皮母斑 (<u>44 頁, 図 B 参照</u>)
225	メモ 3), 1 行 目	inflamed	inflamed
228	組織学的鑑別 診断 [4], 1 行 目	隆起性皮膚線維肉腫 (79 頁) : 境界不明瞭な	隆起性皮膚線維肉腫 (79 頁) : <u>腫瘍細胞が CD34 陽性であるので鑑別が問題になる.</u> <u>しかし, 境界不明瞭な</u>
228	メモ 2), 最終 行	デスミンは陰性である.	デスミンは陰性である. <u>なお, αSMA は一部, 陽性のことがある.</u>

頁	該当箇所	誤	正
229	メモ, 最終行	今後の研究課題である.	今後の研究課題である (<u>齋田俊明：日本臨床 79(増2)：63, 2021</u>) .
230	メモ 2), 3 行目	部分が <u>認めらる</u> ことがあり	部分が <u>認められる</u> ことがあり
235	上から 1 行目	第 1 期は <u>外陰部に硬い無痛性潰瘍 (硬性下疳 chancre) を,</u>	第 1 期は <u>外陰部の硬い無痛性の硬結・潰瘍 (硬性下疳 <u>ulcus durum/hard chancre</u>) と鼠径リンパ節の無痛性腫大 (無痛性横痃) を生じる.</u>
236	メモ 1), 最終行	汗 <u>線</u> 系	汗 <u>腺</u> 系
240	病理組織所見 ②, 3 行目	membranous fat necrosis	<u>membranocystic change</u>
246	病理組織所見 [Fibrofolliculoma]②, 3 行目	密な細 <u>繊維</u> 状の	密な細 <u>線</u> 維状の
254	タイトル	Mastocytosis	Mastocytoma
254	タイトル	肥満細胞 <u>症</u>	肥満細胞 <u>腫</u>
254	組織学的鑑別 診断, 最終行	S-100	S-100 <u>蛋白</u>
258	病理組織所見 [尋常性疣贅] ②, 1 行目	真皮乳頭頂の	真皮乳頭頂 <u>部</u> の

頁	該当箇所	誤	正
263	左段, 上から 4行目の次	—	(追加) ・アポクリン分泌 apocrine secretion: 断頭分泌と同義(☞264頁)。
264	左段, 上から 2~10行目	・偽腺性 pseudoglandular: 有棘細胞癌の腫瘍細胞が胞巣内部で棘融解を起こして離開し, 胞巣辺縁部の細胞のみが1列に並んでみえるため, 一見, 腺構造に類似する組織所見を呈すること(230頁, 図B)。 ・偽角質嚢腫 pseudohorn cyst: 脂漏性角化症でみられる比較的小型の角質嚢腫様構造のこと(224頁, 図A, C, F, G)。連続切片で観察すると皮表の角層の陥入によることが確認され, 真の嚢腫ではないことから偽角質嚢腫と呼ばれる。角質偽嚢腫 horn pseudocyst ともいう。	・偽角質嚢腫 pseudohorn cyst: 脂漏性角化症でみられる比較的小型の角質嚢腫様構造のこと(224頁, 図A, C, F, G)。連続切片で観察すると皮表の角層の陥入によることが確認され, 真の嚢腫ではないことから偽角質嚢腫と呼ばれる。角質偽嚢腫 horn pseudocyst ともいう。 ・偽腺性 pseudoglandular: 有棘細胞癌の腫瘍細胞が胞巣内部で棘融解を起こして離開し, 胞巣辺縁部の細胞のみが1列に並んでみえるため, 一見, 腺構造に類似する組織所見を呈すること(230頁, 図B)。
264	左段, 上から 23行目	経表皮性(異物)排泄	経表皮性(異物)排除
264	左段, 下から 23行目	小型の黒褐色病変を黒子と <u>いい</u> ,	小型の黒褐色病変を黒子と <u>いう</u> 。
264	右段, 下から 6行目	役立つ。	役立つ。apocrine section と同義。
265	右段, 上から 14行目の次	—	(追加) ・表皮融解性角質増生 epidermolytic hyperkeratosis: (☞266頁)。
265	右段, 上から 16行目	ウイルス	ウイルス <u>感染</u>
265	右段, 上から 19行目	角質細胞	角層部
266	左段, 上から 9行目	・両染性 amphophilic: 酸性色素と塩基性色素の両方に染まる性質を有すること。	・両染性 amphophilic: 酸性色素(エオジン)と塩基性色素(ヘマトキシリン)の両方に染まる性質を有すること。

頁	該当箇所	誤	正
266	左段, 上から 12 行目	<u>皮内</u> や皮下にリンパ球が結節状に密に浸潤して	<u>真皮内</u> や皮下にリンパ球が結節状に密に浸潤して
266	左段, 下から 29 行目の前	—	(追加) ・ apocrine secretion : 断頭分泌と同義 (⇒264 頁) .
266	左段, 下から 10 行目	配列で増殖することを cord (索状)	<u>細胞配列</u> で増殖することを cord (索状)
266	右段, 上から 10 行目	・ epidermolytic hyperkeratosis :	・ epidermolytic hyperkeratosis : <u>表皮融解性角質増生.</u>
266	右段, 上から 24 行目	・ extravasation	・ extravasation (of RBC)
266	右段, 下から 14 行目	ニシンの骨様のパターンを呈すること	ニシンの骨様のパターンを呈して増殖すること
267	右段, 上から 23~24 行目	好酸性に染まる <u>硝子化した</u> 細い針金状の膠原線維束が, 錯綜状ないし花むしろ状に走行する状態	好酸性に染まる細い針金状の膠原線維束が, 錯綜状ないし花むしろ状に走行して認められる状態
267	右段, 下から 18 行目	小塊状構造のこと	小塊状構造のこと (128 頁, 図 C)
267	右段, 下から 12 行目	・ Touton (ツートン) 型巨細胞	・ Touton (ツートン) 型 <u>多核</u> 巨細胞

2022 年 6 月 28 日
株式会社南江堂